

3 実践事例とその考察

(3) 検証授業及び事前・事後調査を踏まえた考察

ア 事前の実態調査と事後との比較（全体）

(7) 事前アンケートと事後アンケートにおける意識調査の比較

表1は回答状況についてのクラス全体の変化であり、表2は事前アンケートで「否定的な回答※」（下から2つの回答）をしていた生徒について変化です。

※4件法「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」のうち、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を「否定的な回答」としました。ただし、質問No.2のみ「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を、「否定的な回答」としました。また、上記以外は「肯定的な回答」とします。

表1と表2の結果から、クラス全体として、次の2点について確認することができました。

- ・「日本史は、自分で考えることが必要な科目である」について、回答状況が上向いた生徒が増加しています。
- ・事前アンケートで、否定的な回答をしていた生徒の回答状況がおおむね上向きになっていることがうかがえます。ただし、その一方で、肯定的な回答をしていた生徒が下向き傾向に変容していることを読み取ることもできます。

2点目の肯定的な回答と否定的な回答が入れ替わった理由については、事前アンケートで意識調査では、生徒にとって「知識の精選、関連付け」については、漠然としたイメージのみで回答していたものが、実際にワークシートを用いた学習活動を経験したことで、「知識の精選、関連付け」とはどのようなものかを具体的な経験を踏まえて回答できたためではないかと考えています。よって、今後もこの取組を継続していくことで、回答状況の改善が見込めるのではないかと考えます。

また、事後アンケートでは、「歴史の見方や考え方が広がったかどうか」について質問しました。その回答状況は、図1のとおりです。今回の授業実践によって、知識を精選し関連付けて考えたり、空間軸や時間軸を踏まえて歴史を総合的に考察したりする姿勢が生徒に身に付いたのではないかと考えられます。

また、この質問についての自由記述欄には、「ある時代のある事柄について深く考えることができた」

表1 事前と事後の全体の回答状況の変化

No.	質問事項	下向き	変化なし	上向き
2	日本史は、教師から教えてもらう科目である。	3	10	6
3	日本史は、自分で考えることが必要な科目である。	1	10	8
11	日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ。	8	7	4
16	日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。	3	12	4
17	日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。	6	8	5

表2 否定的な回答状況の変化

No.	質問事項	下向き	変化なし	上向き
2	日本史は、教師から教えてもらう科目である。	0	10	6
3	日本史は、自分で考えることが必要な科目である。	1	7	6
11	日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ。	0	7	2
16	日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。	0	10	3
17	日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。	1	6	4

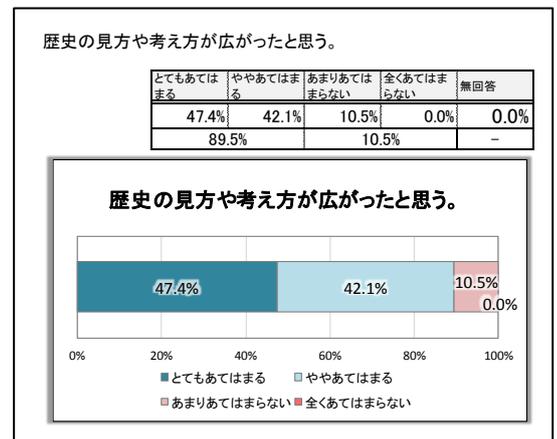


図1 歴史の見方や考え方の広がり

- 「知識と知識を結び付けられた」
- 「新しい見方や考え方ができるようになった」
- 「授業の中でこのような見方があると発見できた」
- 「歴史のいろいろな事柄が結び付いていると理解できた」

などの記述も見られ、生徒の日本史の学習活動に対する意識の改善に寄与できたのではないかと考えます。

(イ) アンケートの回答状況及び調査問題の評価結果についての事前・事後の比較

授業の事後にアンケートによる意識調査及び記述式の以下の調査問題を実施し、授業事前の意識調査及び調査問題の評価結果と比較し、分析を行いました。

【設問】 10世紀の国司の在り方の変質とその影響について、学習したことを基に説明しなさい。
 ※ワークシートの知識の関係図から使用した用語には下線を引くこと。

資料1から分かるように、事後の調査問題における評価結果からは、「C2」の解答数が減少し、設問で求められている知識に1つでも触れている「C1」の解答数が増加しました。

授業における「本時の問い」と評価問題の設問が変わっていたにもかかわらず評価結果が向上したのは、授業実践におけるワークシートを用いて必要な知識を精選し、関連付ける学習活動が、歴史的思考力の育成に一定の効果があったと考えます。ただし、「B」以上の解答状況がさほど増加しておらず、よりの確な知識を用いて思考できるような指導に課題が残ったと考えます。例えば、問いの要素を分解してワークシートの知識と結び付ける活動等を設定すべきと考えました。

また、意識調査と調査問題についてのクロス集計では資料2と資料3のように結果が向上しました。意識調査の回答状況については、生徒個々については変化があるものの全体としては大きな改善は見られませんでした。つまり、調査問題の評価結果の向上がクロス集計の上向き傾向につながったということが言えます。

【事前の調査問題の評価結果】		
評価	判定基準	カウント
A	Bに加え、前時代の狩猟採集社会との変化を踏まえて記述している。	0
B	用語を用いながら「余剰生産物をめぐる争い」を踏まえて論理的に記述している。	2
C1	Bを満たさない。(「余剰生産物・・・」を記述している。用語を用いて説明している。等)	8
C2	C1を満たさない。	7
C3	無解答	2

【事後の調査問題の評価結果】		
評価	判定基準	カウント
A	Bに加え、「地方政治の変質に伴い寄進地系荘園が増加し、武士が台頭したことなど」を論理的に記述している。	0
B	習得した用語を用いながら、「国司の変質(徴税請負人化したこと)」「影響」のどちらかについて時間軸を踏まえて論理的に記述している。	4
C1	「変質」「時間軸」「影響」のどれかを踏まえて記述しているどちらかを満たしている。	13
C2	C1を満たさない。	1
C3	無解答	1

資料1 調査問題の評価結果の比較

【事前】	【事後】																																																																																
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>7</td><td>8</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>C3</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B</td><td>A</td><td></td><td></td></tr> </table>	1	0	0	2	7	8	2	0	2	1	1	4	2	0	0	8	3	1	5	2	0	0	0	8	4	0	1	0	0	0	0	1		C3	C2	C1	B	A			<table border="1"> <tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>6</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td></td><td>C3</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B</td><td>A</td><td></td><td></td></tr> </table>	1	1	0	2	0	0	0	3	2	0	0	5	2	0	0	7	3	0	1	6	2	0	0	9	4	0	0	0	0	0	0	0		C3	C2	C1	B	A		
1	0	0	2	7	8	2	0																																																																										
2	1	1	4	2	0	0	8																																																																										
3	1	5	2	0	0	0	8																																																																										
4	0	1	0	0	0	0	1																																																																										
	C3	C2	C1	B	A																																																																												
1	1	0	2	0	0	0	3																																																																										
2	0	0	5	2	0	0	7																																																																										
3	0	1	6	2	0	0	9																																																																										
4	0	0	0	0	0	0	0																																																																										
	C3	C2	C1	B	A																																																																												

質問16: 日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。
 「1」…とてもあてはまる 「2」…ややあてはまる
 「3」…あまりあてはまらない 「4」…全くあてはまらない

資料2 「質問16」と調査問題の評価結果のクロス集計事前・事後比較

【事前】	【事後】																																																																																
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr> <tr><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>6</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>C3</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B</td><td>A</td><td></td><td></td></tr> </table>	1	0	0	3	1	0	0	4	2	0	2	5	1	0	0	8	3	2	4	0	0	0	0	6	4	0	1	0	0	0	0	1		C3	C2	C1	B	A			<table border="1"> <tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>5</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>6</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>C3</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B</td><td>A</td><td></td><td></td></tr> </table>	1	1	0	1	1	0	0	3	2	0	1	5	2	0	0	8	3	0	0	5	1	0	0	6	4	0	0	2	0	0	0	2		C3	C2	C1	B	A		
1	0	0	3	1	0	0	4																																																																										
2	0	2	5	1	0	0	8																																																																										
3	2	4	0	0	0	0	6																																																																										
4	0	1	0	0	0	0	1																																																																										
	C3	C2	C1	B	A																																																																												
1	1	0	1	1	0	0	3																																																																										
2	0	1	5	2	0	0	8																																																																										
3	0	0	5	1	0	0	6																																																																										
4	0	0	2	0	0	0	2																																																																										
	C3	C2	C1	B	A																																																																												

質問17: 日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。
 「1」…とてもあてはまる 「2」…ややあてはまる
 「3」…あまりあてはまらない 「4」…全くあてはまらない

資料3 「質問17」と調査問題の評価結果のクロス集計事前・事後比較

さらに、事後の調査問題の評価に当たって、「国司の変質（変質）」「その影響（影響）」「時間軸を踏まえた記述（時間軸）」「論理的な記述」の4つの判定項目を用いました。その際、各判定項目の充足の数と割合について、「時間軸を踏まえた記述」が高い数値を示しています（表3）。事前の調査問題では、「時間軸を踏まえた記述」が設問で明確に求められている項目ではない状況ではあったものの、「時間軸を踏まえた記述」をしていた生徒が2名だったことを考えると、事後で「時間軸を踏まえた記述」が13名に増加しています。問いとワークシートを用いた今回の学習活動を他の単元でも継続的に取り組ませれば、「時間軸」を踏まえた思考力の向上が期待できるのではないかと考えます。

表3 事後の調査問題の判定項目の充足

	判定項目			
	変質	影響	時間軸	論理性
記入していた生徒の数 n= 19	8	3	13	6
割合	42.1%	15.8%	68.4%	31.6%

ア 事前の実態調査と事後との比較（抽出生徒）

授業実践前後の、抽出生徒の意識調査及び調査問題の評価結果の事前・事後の変容、ワークシート記述と事後の調査問題の評価結果の関連についての分析は以下のとおりです。

抽出生徒A

意識調査については、多くの質問で改善が見られました。意識調査の自由記述の欄には「知識を組み合わせると新しいことが分かる」「幅広く考える力が身に付いた」と回答しており（資料4下線部）、知識を精選し、関連付けることの有用性を認識できていたようです。

また、授業実践2のワークシート及び事後の調査問題の記述内容を比較すると、「最後の班田」「戸籍・計帳の制度が崩れたため」等のワークシートに記入した知識を活用して、「班田収授が実施できなくなり」と調査問題で記述しています（資料5）。

以上のことから、評価の結果については事前と同様「C1」であるものの、知識の精選、関連付け踏まえて自ら考えることが、学習内容の理解の深まりにつながるという気付きを得ることが出来ていたのではないかと考えます。

質問No.	質問事項	事前	事後	事後アンケート「選んだ理由」
2	日本史は、教師から教えてもらう科目である。	3	2	自分で勉強するためのきっかけになるから。
3	日本史は、自分で考えることが必要な科目である。	2	1	自分で考えたと理解が深まるから。
11	日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ。	3	2	多くの考えがでて面白いら。
16	日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。	2	1	知識をいろいろ組み合わせると新しいことが分かるから。
17	日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。	1	1	その時代の背景知識が分かるようになったから。

事後アンケートでの授業についての自由記述
授業を通して、幅広く考える力が身に付いたと思う。

「1」〜とてもはまる
「2」〜ややあてはまる
「3」〜あまりあてはまらない
「4」〜全くあてはまらない

「質問16」と「評価」

日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。

1		後	
2		前	
3			
4			
	C3	C2	C1
		B	A

「質問17」と「評価」

日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。

1		前・後	
2			
3			
4			
	C3	C2	C1
		B	A

資料4 生徒Aの変容

10世紀になると班田収授を実施できなくなり、国司の交替制度を整備し、そのような国司を受領と呼ぶようになった。受領は田堵に耕作を請け負わせ、課税の対象となる田地を名という単位に分けた。受領以外の国司は赴任せずに、収入のみを受け取る遙任を行った。8世紀初めと比べて、国司は農民への政策を怠り、農民からの反発も起こった。

... 「時間軸」に関わる記述
 ... 評価の判定項目以外の知識の活用

資料5 生徒Aのワークシート及び事後の調査問題の記述内容

抽出生徒B

意識調査の回答状況は大きくは改善していないものの、若干の改善がみられます。また、意識調査の自由記述欄の内容から、「歴史の流れ」つまり「時間軸」を踏まえて時代の変遷を捉えることの大切さを実感することができているのではないかと考えます（資料6下線部）。

また、ワークシートへの記入については、知識の数自体は多く記入されていないものの、調査問題の判定結果については「B」と事前の調査問題の判定結果よりも向上していました。ワークシートに記入していた「律令体制についてのゆきづまり」や「寄進地系荘園」に関する知識を活用し、調査問題では「時間軸」に関わる記述及び寄進地系荘園が成立した理由といった国司の在り方が変化した「影響」についても触れて記述していました（資料7）。これは、ワークシートに記入する際にも、「本時の問い」を踏まえて知識を精選するとともに、評価問題については設問が求める条件を基にワークシートに記入した知識を適切に選択して記述できていたからではないかと考えます。

質問No.	質問事項	事前	事後	事後アンケート「選んだ理由」
2	日本史は、教師から教えてもらう科目である。	1	2	自分には知識を分りやすく覚えることができるから。
3	日本史は、自分で考えることが必要な科目である。	3	1	教えてもらったことを自分なりに理解することが大切だから。
11	日本史に関する出来事の意味を考えることは好きだ。	3	3	歴史の流れが分からないので、意味までは考えられないから。
16	日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。	4	3	用語は覚えられているが、歴史の流れが分からないから。
17	日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。	4	3	どれが重要かどうでないかの基準が分からないから。

事後アンケートでの授業についての自由記述

今回の授業は普段の授業形態とは違ったので、とても新鮮だった。1つの言葉に関連する言葉を自分で見つけられたら、流れも身に付いていくのだと思った。

「1」…とてもはまる
 「2」…ややあてはまる
 「3」…あまりあてはまらない
 「4」…全くあてはまらない

「質問16」と「評価」

日本史について、知識と知識同士を結び付けて考えることができる。

1				
2				
3				
4	前		後	
	C3	C2	C1	B A

「質問17」と「評価」

日本史の学習で、設問に応じてどの知識が必要かを判断ができる。

1				
2				
3				
4	前		後	
	C3	C2	C1	B A

資料6 生徒Bの変容

国司は、民政・裁判などを司るものである。10世紀は、律令体制がいきづまり、戸籍・計帳の体制もくずれ、班田收授も実施できなくなったために、税が変わっていった。10世紀の税は、官物・臨時雑役があり、土地に税がとられる。それらを納めるのが田堵や名主の有力農民で、その人々が開発領主となり、開発領主と国司との間で対立や協力があり、寄進地系荘園が生まれた。

… 「時間軸」に関わる記述
 … 「影響」に関わる記述
 … 評価の判定項目以外の知識の活用

資料7 生徒Bのワークシート及び事後の調査問題の記述内容

ア、イから、単元の学習内容を振り返らせる場面において、ワークシートを用いて知識を精選させ、関連付けさせる手立ては、「空間軸に関わる各時代の特色」「時間軸に関わる時代の変遷」を踏まえて歴史を考察させることにつながったと考えます。